早産の原因と予防

妊娠２２週以降から３７週未満までの出産をいいます。
熊本県では、妊娠中期における早産が多く、特に**22～24週の超早期産**の占める割合が高い状況にあります。
早産になると心肺機能や体温調節機能、免疫力など未熟ままの状態で生まれてきます。

✿　喫煙って、本当に怖い！　～早産および自然流産の頻度が約１．５倍～

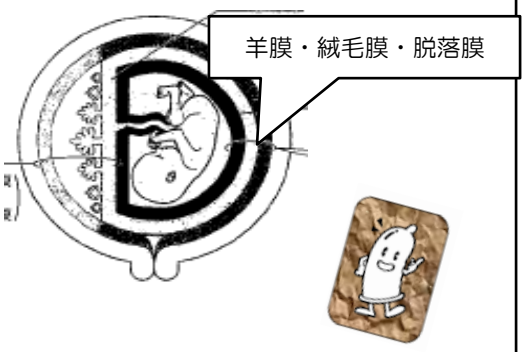
たばこの煙に含まれるニコチンは、血管を収縮し、子宮そして胎盤への血液量を減少させるため胎盤の機能が低下し障害を受けます。胎盤の血流が悪くなると、お腹の赤ちゃんの血液の流れも悪くなり、また、たばこの煙中の一酸化炭素が赤ちゃんのヘモグロビンと結合し、酸素の運搬能力を大幅に低下させるため、赤ちゃんは低酸素の状態になり、弱っていきます。 胎児の身体発育全体の値が低下し、喫煙する妊婦から生まれた赤ちゃんの体重は、非喫煙者に比べて約200g軽く、また低体重児の頻度も約2倍程度となっています。
（厚生労働省「二〇〇〇年乳幼児身体発育調査」）

✿　感染予防が重要！　～妊娠中のセックスは、コンドームの使用を～

膣炎から子宮頚管炎（子宮の出口に細菌が感染）、絨毛膜羊膜炎（赤ちゃんを包む膜の周囲へ炎症が及ぶ）というように細菌は下から上へと上行し、そしてこれが原因でおこる前期破水や子宮内感染によって子宮の収縮（陣痛）が起こります。こうなると早産は止めることができず、未熟児で生まれてしまうばかりでなく、赤ちゃんの脳発達にも障害を与える可能性が出てきます。

＜絨毛膜羊膜炎＞
早産に至った胎盤を調べるとかなりの頻度で絨毛膜羊膜炎を起こしていることがわかってきました。

子宮の中の赤ちゃんは、脱落膜・絨毛膜・羊膜の３枚の膜（卵膜）で守られています。卵膜などに炎症が及ぶと子宮を収縮させ、破水や早産が起こりやすくなると考えられています。



＊妊娠中のコンドームを使用しないセックスは、膣炎・子宮頚管炎の原因となり、
また絨毛膜羊膜炎を　助長することになる可能性が指摘されています。
精液には子宮を収縮させる作用のホルモンが入っており、早産を起こす可能性が高くなります。

✿　歯周病は早産の原因に！

最近では、歯周病が早産の原因の１つであるという研究報告もあり、歯周病が進んでいる妊婦は早産の危険性が高いといわれています。
むし歯や歯周病は、治療や指導を受けるようにしましょう！

✿上記の他にも早産の原因はさまざまです

・母体に原因がある場合、（子宮頚管不全症、妊娠高血圧症候群など）
・胎児に原因がある場合、（多胎（双子・三つ子など）や先天異常があるなど）
・原因不明（精神的ストレス、肉体的な過労、高齢出産、若年出産など）

～様子がおかしいと思ったらすぐに受診を！！～

八代市保健センター